



IT部門の課題を克服： ロジクールRally製品でMicrosoft Teamsを最大限に活用

ロジクールRallyソリューションと
Microsoft Teamsで柔軟性、拡張性、コスト
効率を改善

著者 Craig Durr
リサーチディレクター – Workplace Collaboration |
The Futurum Group

提携

logicool®

2023年10月



画像提供：ロジクール

モダンワークプレイスを Microsoft Teamsで再定義する

「新しい働き方」という言葉は、急速に過去のものになりつつあります。パンデミック終息後の世界に突入した今でも、その新しい働き方とされたものが、これからも継続していくことは明らかです。Pew Researchの調査⁽¹⁾によると、米国でリモートまたはハイブリッドワークに対応可能な職種の労働者のうち、75%以上が現在も、そのワークスタイルを継続しているとのこと。The Futurum Groupは、世界的に同様な傾向が見られることを確認しています。このような流れを受けて、多くのIT部門の意思決定者は戦略的な行動を起こしています。ユニファイドコミュニケーション（UC）プラットフォームとして、Microsoft Teamsを全面的に採用しようとしているのです。読者のあなたもその1人であるなら、このパラダイムシフトの重要課題に立ち向かう姿勢に拍手を送らせていただきたいと思います。

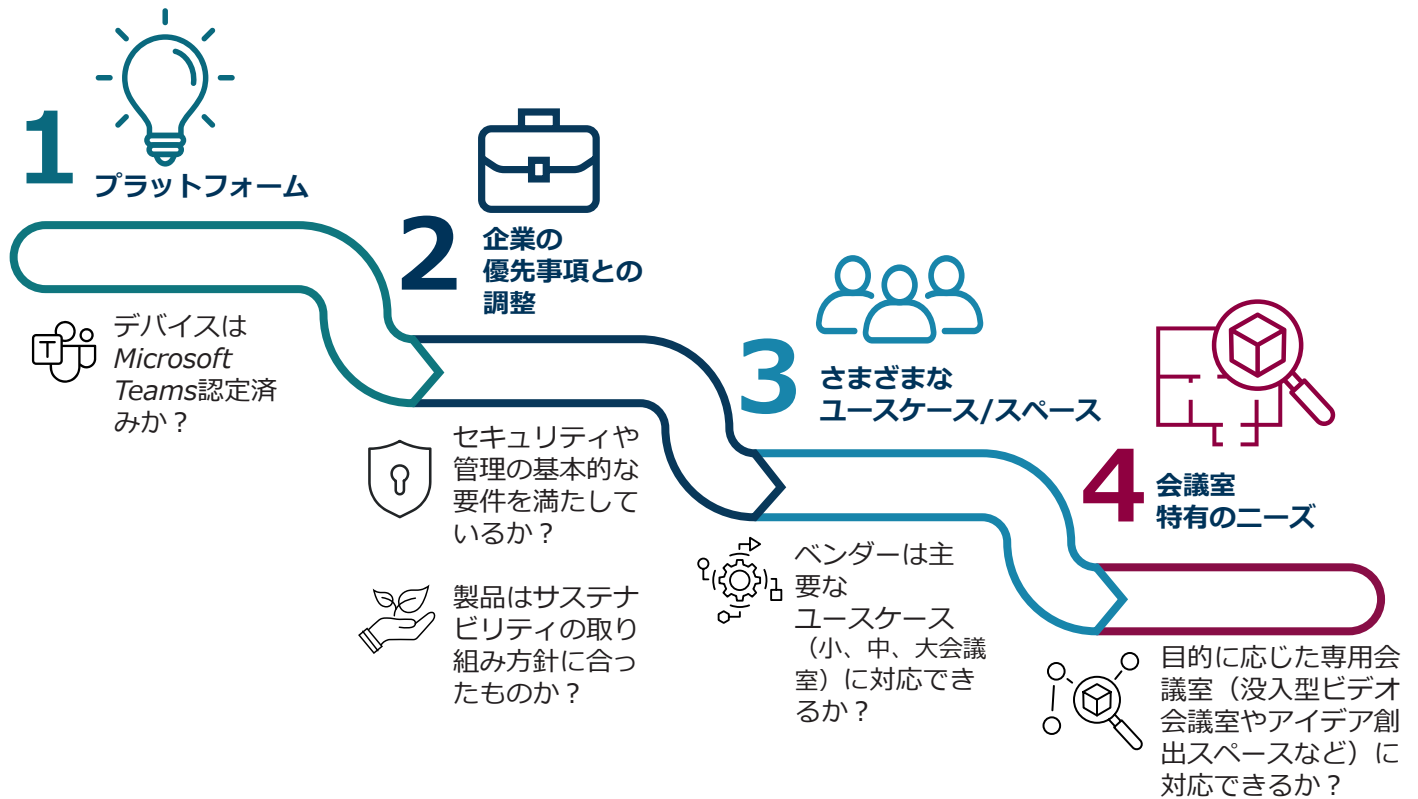
たとえば、現在大きな課題となっていることとして、どこから会議に参加するかにかかわらず、互いに姿が見え、声が聞こえていると参加者が実感できる環境を確保するというものがあります。企業はパンデミックを通してオンライン会議をスムーズに運営する方法を学びましたが、ハイブリッド会議ははるかに複雑です。

さらに、IT部門の責任者は、業務ワークフローの更新、戦略的なオフィスの利用形態の見直し、業務ポリシーの変更など、新たな課題に取り組んでいます。職場のコラボレーションテクノロジーに関する議論は、人事部門や施設管理部門からの要望も加わるため、範囲が拡大しています。同時に、IT部門の担う役割も複雑化しています。

すでに多数のIT部門の意思決定者が、コミュニケーションおよびコラボレーションソリューションにMicrosoft Teamsを採用している事実から、Teamsが未来の働き方を示していることは明らかです。ただし、IT部門にとっては、新たな課題が持ち込まれることにもなります。

(1) <https://www.pewresearch.org/short-reads/2023/03/30/about-a-third-of-us-workers-who-can-work-from-home-do-so-all-the-time/>

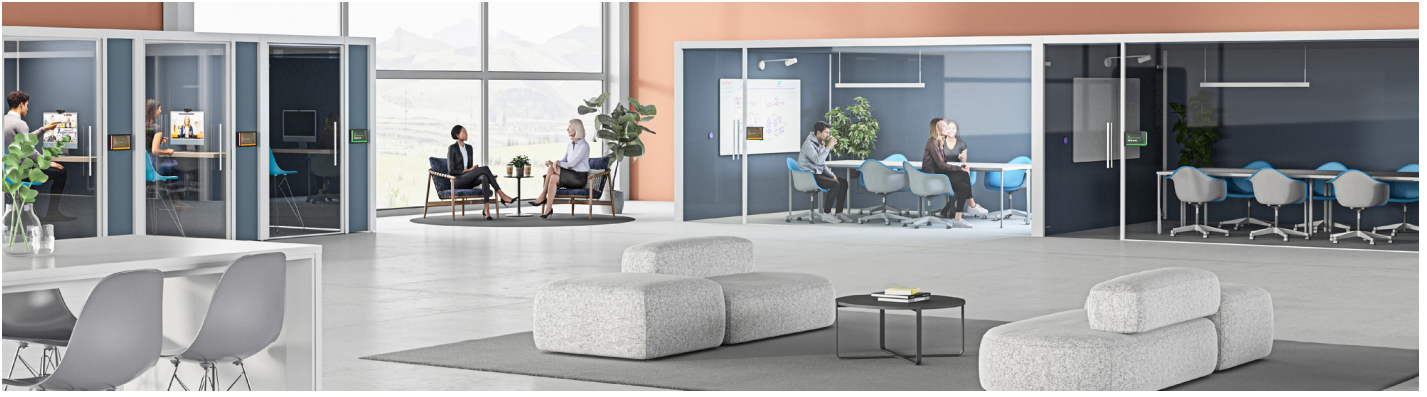
Microsoft Teams採用に伴う ハードウェア選定の流れ



Microsoft Teamsを主要なUCプラットフォームとして採用したとしても、その後のハードウェアの選定が簡単に済むわけではありません。むしろ逆に、Microsoft Teamsエコシステムのハードウェア選定は手ごわい課題なのです。ベンダーや製品の数が多いため、選ぶにもどこから手を付けてよいものか頭を悩ませることになります。

The Futurum Groupは、適切なハードウェアの選定が組織にとって重要であることを理解しています。そのため、選定には数段階の意思決定のステップを踏むようお客様にアドバイスしています。Microsoft Teamsに最適なハードウェアパートナーなら、次の質問にすべて答えることができるでしょう。

- プラットフォーム：デバイスはMicrosoft Teams Rooms認定済みか？
- 企業の優先事項との一致：セキュリティや管理の基本的な要件を満たしているか？その製品は自社のサステナビリティの取り組み方針に合ったものか？
- さまざまなユースケース/スペース：ベンダーは、主要な小、中、大会議室のユースケースに対応できるか？
- 会議室に特有のニーズ：目的に応じた専用会議室（没入型ビデオ会議室やアイデア創出スペースなど）に対応できるか？



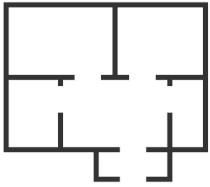
現在の環境における IT管理の重大な課題

Microsoft Teamsを中心としたUCの導入に明確な理解が得られていても、IT部門の意思決定者は、今日のリモートおよびハイブリッドワークに対応したビデオ会議環境を導入する上で、大きな課題に直面します。パンデミックに伴うロックダウン時に急速に導入が進められたビデオ会議のシステムとプロセスは、長期的に見ると、ハイブリッドワークスペースをサポートするには力不足である可能性があります。当社では、ITプロフェッショナルと話し合い、当社のコラボレーションソリューションに対する要望を聞く機会を設けました。その結果を基に、IT部門が直面している課題のうち上位に挙げられるものをいくつか紹介します。

会議室の複雑なレイアウト

従来の会議室の概念は通用しなくなり、オフィスは、目的に応じた専用スペースや新しいMicrosoft Teamsのユースケースに対応する多面的環境へと変わりつつあります。

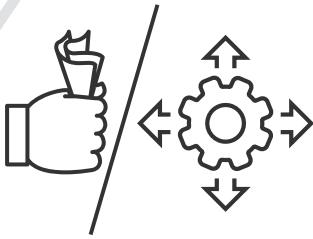
IT部門は、高品質でよりシンプルなビデオ会議システムという要求に応えるために苦心しています。しかも、従来の小、中、大会議室にとどまらない、さまざまな形態の会議室に対応しなければなりません。Microsoft TeamsのFront Row機能、フォーカスルーム、柔軟性の高い会議室、コラボレーションエリアなど、さまざまな条件下で高品質な映像と音声を提供しなければなりません。その結果、IT部門が行う計画とプロビジョニングから導入とメンテナンスに至るまで、あらゆる面が複雑になります。

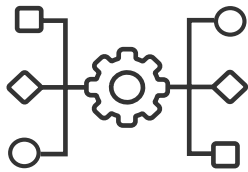


価格と拡張性のバランス

コストと適切な機能とのバランスを取ることは重要です。特に、さまざまなサイズの会議室で、Microsoft Teamsが一貫したパフォーマンスを発揮できるようにする場合は重要性も高まります。ハドルルームであろうと大会議室であろうと、会議に参加する全員に質の高い会議体験を提供したいと考えるものですが、そこで難題が持ち上がります。10室の会議室だけではなく、複数の拠点や地域にまたがる200室や500室の会議室でも同じことをしなければならぬとしたらどうなると思いますか。

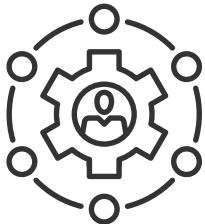
これは、一部の環境だけでうまく機能する会議室ソリューションを選ぶだけでは解決するものではありません。さまざまな種類の会議室、さらには各地のキャンパスにも導入可能な、汎用性の高い製品ポートフォリオをリーズナブルな価格帯で見つけ出す必要があります。また、ビデオ会議対応にするスペースがいくつあろうとも、各導入場所で同じクオリティとユーザー体験を維持しなければなりません。





多様なテクノロジースタック

お客様のIT環境を、混雑した空港のようなものだと思ってください。各ターミナルが、Microsoft Teams、Zoom、Google Meetなど、さまざまなユニファイドコミュニケーション（UC）プラットフォームに当たります。採用したUCプラットフォーム外のユーザーや組織と会議を行う従業員は、ターミナル間を行き来してフライトをつかまえる必要がある旅行者のようなものです。いくらMicrosoft Teamsを標準としていても、かなり慌ただしいことがわかります。The Futurum Groupでは、すべての企業のうち半数近くが、複数のUCプラットフォームを公認のものとして運用していると、この複雑さを裏付けています。⁽²⁾ このように多様なテクノロジーが使われるため、IT部門には、十徳ナイフのように万能な対応力が求められるようになってきました。IT部門は、会議用デバイスがこの入り組んだ迷路のような状態を通り抜けて、UCプラットフォームに関係なく、エンドユーザーにスムーズな会議体験を提供できるようにする必要があります。

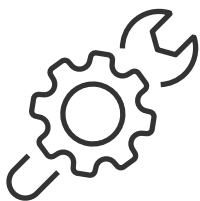


ステークホルダー（利害関係者）管理

ITDM（IT部門の意思決定者）が必要としているコミュニケーションツールは、技術的課題の解決のためだけでなく、人事、企業不動産、施設、調達など、より広範囲の組織の目的に役立つものです。たとえば、人事部門では、雇用の合理化、時間とコストの削減を行うことができます。リモートワークにより、必要とされる物理的空間を削減し、家賃、水道光熱費、オフィス備品のコストを節約できます。調達部門は、コストとベンダー管理のバランスを取るという独自の課題を抱えています。

このような状況では、さまざまな立場の関係者の要望に応えるソリューションが必要であることは明らかです。また、予算面のメリットもあります。これはSun Microsystems社が不動産において年間6,800万ドルを節減し、Dow Chemical社とNortel社が不動産以外のコストを30%削減したことからもわかります。⁽³⁾

ハイブリッドおよびリモートワークに移行したことで、IT関連の関係者の範囲は明らかに拡大しています。そのため、そのすべてに対応できるソリューションを選ぶことはますます困難になっています。



メンテナンスと管理のしやすさ

IT部門にとっては、ビデオ会議システムの初期設定は単なる第1段階に過ぎません。IT部門には、この「デジタルランドスケープ」を管理する優れたツールが必要です。Teams管理センターは、Teams Roomsのアカウントとソフトウェアを管理する優れた管理ツールですが、ハードウェアの詳細情報は提供できず、細かい制御もできません。ファームウェア更新、問題のトラブルシューティング、会議室の占有率と使用率の情報収集を行いつつ、なるべく個別の現場で作業を直接行わずに済むようにする手段がやはり必要です。

このようなシステムの使用率は日ごとに増加しています。The Futurum Groupの調査によると、80%以上の会議にリモートからの参加者が1人以上いることがわかっています⁽⁴⁾。ユーザーにとって、ビデオ会議デバイスの重要度が高まっているのです。会議の数が増えると、ビデオ会議室の規模が拡大し、複雑さが増します。さらには、管理、保守、アップタイムの最適化をリモートで一元的に行う必要性も高まります。

(2) The Futurum Groupの調査によると、企業の48%が、IT部門の管理するUCプラットフォームを複数使用している。

(3) <https://globalworkplaceanalytics.com/resources/costs-benefits#toggle-id-5>

(4) Microsoft Teams認定は2023年第4四半期に予定

Rally製品ファミリーのご紹介



画像提供：ロジクール

ロジクールRallyポートフォリオは、さまざまな会議室のサイズやユースケース向けに設計された、幅広いビデオ会議ソリューションを提供しています。また、そのすべてがMicrosoft Teams Roomsの認定を受けています。小規模な会議スペースに適した、コンパクトなRally Bar Huddleから、大きめの会議室やモジュール式会議スペースに対応する、より汎用性の高いRally Plusシステムまで、さまざまな製品により広範囲にわたるMicrosoft Teams Roomsとの連携機能を提供します。

筆者は、The Futurum Groupの主任リサーチディレクターとして、市場の大手ベンダーのビデオ会議用製品を評価する機会をいただけてきました。印象的だったのは、ロジクールが、よく使われる4つのタイプの会議室を1つのポートフォリオでカバーしていたことです。

会議室	ハドルスペース	アイデア創出スペース	没入型スペース
<p>従来型の会議室向けのソリューションです。会議室の前方に設置するカメラ、タッチコントローラ、会議室内の音声と映像のカバー範囲を拡張するアクセサリを備えています。</p>	<p>短時間のコラボレーションや臨時の会議を行う、小規模スペースへのビデオ会議導入に最適なソリューションです。簡単にセットアップや大規模導入が行えます。</p>	<p>オープンなスペースや汎用性の高いスペース向けに設計された、直感的に操作でき、双方向のコミュニケーションができるソリューションです。メンバーが分散しているチームのブレインストーミングやアイデアの創出を促進します。</p>	<p>ビデオ会議用に設計された会議室です。家具のデザインとカメラの配置によって、会議室内の参加者の姿をより見やすい状態でカメラがとらえます。</p>

シリーズの各製品は、会議室の物理的な環境や参加者の向きが変わっても対応できるように、さまざまなレベルのズーム、集音、追加の卓上型会議用カメラやマイクポッドのサポート、Speaker ViewやGrid Viewなどのインテリジェントな機能など、最適化された一連の機能を提供します。ロジクールが競合他社と異なるのは、ポートフォリオが一貫した優れた設計の機能を備えている点です。PCベース、アプライアンスベース、BYOD (Bring Your Own Device) モードなどの配慮が行き届いた導入オプション、会議室に合わせて柔軟な設置ができる取り付け機能、ケーブルをしっかりと接続した状態で固定するケーブル管理機能などを備えています。

このポートフォリオは、現代のハイブリッドワーク環境の多様な要求に応えるために、包括的なアプローチを採用していることが伺えます。そして、本書で取り上げている複雑な課題に取り組む際に、その真の実力が発揮されるでしょう。

前方および会議テーブルの中央からの視点に対応するロジクールSight卓上型会議用カメラ



ロジクールRally製品ファミリーが理想的なソリューションである3つの理由

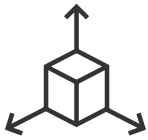
Microsoft Teamsを導入した今日の複雑なハイブリッドワーク環境において、ロジクールRallyポートフォリオが実用に耐えるだけでなく優れた選択と言える、3つの説得力のある理由について見ていきましょう。

1

比類のない柔軟性。 今日の職場環境の複雑さを克服するには、柔軟性が必要です。ロジクールは、最初からIT部門に柔軟性を提供します。



単一のポートフォリオであらゆるタイプの導入をサポート。 お客様が求めるソリューションのデバイスがWindowsベースであっても、Androidベースであっても問題ありません。ロジクールRallyファミリーは、USBモードとアプライアンスモードの両方をサポートしているため、IT管理者は、さまざまなテクノロジープラットフォームやエンドユーザーユースケースに対応できます。導入タイプがどちらであっても、Teams Room環境をそのままご利用いただけます。エンドユーザーは、Microsoft Teamsのワンタッチでの会議参加、ダイレクトゲスト参加、手書きのホワイトボードをデジタル会議で共有できるコンテンツカメラなどの機能をご利用いただけます。また、Teams会議を個人のデバイスから会議室にシームレスに転送するなどの近接参加機能も使用できます。



スペースになじむデザイン。 ロジクールRally製品ファミリーは、事実上あらゆる会議室に対応可能な、市場でも有数の製品ファミリーです。たとえば、費用対効果の高いソリューションを必要とするハドルーム、ロジクールSightによる追加のカメラサポートやRally Systemのモジュール式オーディオオプションといった複雑な機能を要する役員用会議室、Microsoft Signature Teams Roomsのような没入感の高いビデオ中心の会議室などで利用できます。ロジクールでは、[外部AVパートナー製品に対応したマウント、移動式スタンド、連携機能も提供しています。](#)



単一ベンダーによる相乗効果。 ロジクールは、デスクトップソリューションから大会議室向けまで、単一ベンダーで全てが揃う、一貫した「ワンストップ体験」を提供します。単一のベンダーでこのようなことができるのは、めったにないことです。

2

優れたIT部門向けリソース。 会議室のセットアップから相互運用、継続的な会議室管理まで、製品のライフサイクル全体を通していかにIT部門の負担を軽減するかということが、IT部門を重視したポートフォリオの特長です。ロジクールが機能性だけでなく信頼性も重視しているのは、このようなIT部門への姿勢があるからです



ロジクール Syncおよびロジクール Selectサービス。 購入後はこれらのツールが管理業務を容易に、メンテナンスの手間を減らし、パフォーマンスを安定させることで、高い信頼性を提供します。Microsoft Teams Roomアカウントと関連ソフトウェアの管理はSync管理センターが担当し、総合的なデバイス管理、高度な分析、メンテナンスサポートはロジクールSyncが担当します。またSyncは、単一の管理ツールでRallyポートフォリオとロジクールのパーソナルコラボレーションデバイス、両方の管理を行えます。

オプションのSelectサービスを追加すると、エキスパートによる迅速な支援、高度な交換対応、延長保証を利用できるため、機能と合わせてさらなる信頼性を確保することができます。



機能的かつ洗練されたデザイン。 ロジクールはデザインを重視しています。そして、会議スペース全体にデザイン性が表れているべきだと考えています。複数の取り付けオプションやケーブル管理など、些細なことですが重要な点が、迅速かつ効率的な導入を実現します。また、ロジクールのユーザーインターフェイス (UI) は直感的に使えるデザインになっているため、込み入ったサポートの必要が生じません。エキスパートによる包括的デザインで、ユーザーがどのデバイスを使っても、どこにいても、一貫した質の高い会議体験を実現できるようになっているのです。



お客様にとって重要なUCプラットフォームの認定。 Microsoft Teams認定が、多くのIT部門の責任者にとって優先事項となるのは間違いないことですが、その他の主要なUCプラットフォームによる認定にも価値があります。広範囲にわたる認定があれば、汎用性、順応性、将来的な拡張性を保証できます。ロジクールではこの点を認識し、RallyポートフォリオをMicrosoft Teamsに最適化するだけでなく、ZoomやGoogle Meetなどの主要プラットフォームの認定も取得しています。複数プラットフォームの認定を受けることで、システム管理を容易にし、相互運用性に関わる懸念事項を低減して、進化を続けるコラボレーションのニーズと、クロスプラットフォームのやり取りに対応する柔軟性を提供できます。

ロジクールの価値はRallyファミリーだけではない

ロジクールを選ぶべき理由の一つは、Rally製品ファミリーだけにとどまらない、優れた価値を提供していることです。次の点に注目してください。

Microsoft Teamsと連携するオーディオ/ビデオAI

Rallyファミリーを支えるロジクールRightSense AIテクノロジーは、Microsoft Teams Roomsの高度な機能と連携するように、入念にデザインされています。RightSenseは、RightSoundでクリアな音声を確保するだけでなく、Microsoft IntelliFrame機能とシームレスに連携してビデオ画質を向上させ、Microsoft Teams会議の参加者が、会議室のどこにいても最適な構図でフレーム内に表示されます。

ユーザー重視のシームレスなデザイン

ロジクールは、技術を開発するだけでなく、体験を作り上げます。Rallyファミリーはデザインが一貫しているため、ユーザーの使用感を向上させ、使い方に悩まされることなく会議に集中することができます。

Sight、Tap Scheduler、Scribeなどの多彩な追加アクセサリ

室内用デバイスを追加して、会議室のエコシステムの完成度を高めることができます。ロジクールSightは、会議室前方のカメラのカバー範囲を拡大します。Scribeは、手書きのホワイトボードをリモートからの参加者にもよく見えるようにします。Tap Schedulerでは、会議の詳細情報の確認や、急な会議あるいは予定された会議のための会議室予約が簡単に行えます。これらの機器は単なる追加オプションではなく、会議室ソリューションを語る上で欠かせないものであり、柔軟性と機能性の面で選択肢を広げるものです。

3

業界トップレベルの総保有コスト（TCO）。 Microsoft Teams向けに調整済みのロジクールRallyポートフォリオは、包括的な戦略をリーズナブルなコストで提供し、ハイブリッドワーク環境における課題を克服できるよう支援します。



拡張性を考慮した設計。 Rallyファミリーは、拡張性に細心の注意を払って設計されています。これは財務面にも当てはまり、妥当な予算でビデオ会議機能を複数の会議室や建物全体にまで拡張できるよう配慮されています。



メンテナンスの時間を節約。 Syncなどのソフトウェアツールやポータルにより、効率的なプロビジョニングや、更新の管理とデバイスのモニタリングをすべて一元的に管理できます。プレミアム機能を追加すると、アップタイムを最適化するための追加のインサイトやプロアクティブなアラートが利用可能になります。



お客様のROIへのコミットメント。 ロジクールでは、Microsoftのイノベーションとの連携を着実に続けるとともに、お客様のニーズに配慮し、お客様の投資に対するリターンを最大化できるよう努力を重ねています。これは、ビデオソリューションのライフサイクルの各段階で付加価値を提供することで証明されています。たとえば、ロジクールではCollabOSを使用しています。このデバイス運用システムを活用して、会議室内の機能改善のためにデバイスに新機能を追加したり、サードパーティによる新機能を拡充したり、他のロジクールエコシステムとの連携を強化したりできます。ロジクールは、お客様の成功を最優先に考えています。

Microsoft Teamsに適したRally会議室ソリューションに対するThe Futurum Groupの結論



画像提供：ロジクール

ロジクールRallyラインナップを分析した結果、これらの製品は、特にMicrosoft Teamsを軸としたハイブリッドワーク環境において、IT部門の責任者たちが直面している複雑な課題に対処できるよう入念に設計されていることが明らかになりました。組織のコミュニケーションおよびコラボレーションテクノロジーを調整しようとする、新しい会議室構成、新しいステークホルダー、複数のUCプラットフォーム間の調整、価格と拡張性の兼ね合いなど、多数の問題が投げかけられます。ロジクールの製品とソリューションなら、これらの課題すべてに対応することができます。

優れた点が多数あります。Rallyファミリーは、さまざまなサイズの会議室やユースケースにおいて、Microsoft Teamsとシームレスな連携ができる点が際立っています。ロジクールはMicrosoftとの連携を重視しており、その姿勢は製品やサービス全体からも伺い知れます。まだまだ実例を挙げるすることができます。

変化を続ける今日のIT業界に登場した、ロジクールRallyファミリーのMicrosoft Teams用ソリューションは、IT管理者たちが現在直面している喫緊の課題に対応できる性能を持っています。



ロジクールについて

ロジクールは、すべての人が情熱を追求できるよう支援すること、そして人と地球に優しい方法でそれを行うように努めています。またビジネスの成功に貢献し、仕事や創造的活動、ゲーミング、ストリーミングにおいて、人と人をつなげるハードウェアおよびソフトウェアソリューションを開発しています。Logitech Internationalは1981年に創立された、スイスのローザンヌに本社を置く、スイス連邦の株式公開企業であり、スイス証券取引所（SIX : LOGN）とNASDAQ Global Select Market（LOGI）に上場しています。ロジクールとビジネス製品、エンタープライズソリューションについて詳しくは、www.logicool.co.jp/business、[Logicool for Businessブログ](#)、[@LogitechBiz](#)をご覧ください。



The Futurum Groupについて

The Futurum Groupは、ハイテク業界向けのテクノロジーリサーチとコンサルティングを行うグローバル企業です。当社は、リサーチ、市場情報収集、分析、コンサルティング、ラボ評価、マーケティング、リード獲得サービスを主な業務としています。The Futurum Groupのサービスは、市場を攪乱する新興テクノロジーの分析、トレンドの特定と評価、データとインサイトの提供を中心としています。また、販売およびマーケティングキャンペーンの企画や実施を通じて、クライアント様の強みを見つけて競争力を高め、活用するお手伝いをしています。

世界各地の有力テクノロジー企業200社以上がThe Futurum Groupとの関係を強めており、そのなかにはテクノロジー業界をリードする20社のグローバル企業のうち14社も含まれています。The Futurum Groupはクライアントと長期に及ぶ信頼関係を確立してきたことでも知られ、リテーナー契約の年次更新率は99%となっています。

The Futurum Groupの詳細を知りたい場合、または当社アナリストへのご連絡を希望する場合は、[当社チームまでお問い合わせ](#)ください。

リサーチャーについて



Craig Durrは、The Futurum Groupでリサーチディレクターを務めています。企業、従業員、お客様の間にはシームレスなつながりを生むサービス、テクノロジー、デバイスに焦点を当てたWorkplace Collaboration（職場のコラボレーション）を担当しています。

専門分野は、包括的な市場分析、規模の予測、製品評価、新興のトレンド、エンドユーザーと購買者の要望調査などです。Durrは、テクノロジーの探求に加え、仕事における人的要素（労働力、職場、ワークフローに関する知見を体系化）についても研究し、これらの変動要因がテクノロジーやビジネス戦略に与える影響を図式化しています。

連絡先は以下の通りです。メール：cdurr@futurumgroup.com、
Twitter：[@craigdurr](#)、LinkedIn：<https://www.linkedin.com/in/craigdurr/>